

公募による地域参加者の募集に
寄せられたご意見

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

技術的な見直しはついているから処分地の指定と同意を得るために国が積極的に動くことがオー。事業資金は国民の理解を得て電気料金の原価に準入して確保することが適当だ。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

本報知の状況、原子力発電のスタートと共に燃費物処理は不可避の問題として国は国策として20年後には処理方法が確立されるという約束してきた。その後先進国の技術開発と電力事業者の努力によつて高レベル廃棄物を含めて処理技術に一定の進展がつけられた。六ヶ所の新増設が建設され燃費物一部が入れが始まったがここに至るまでは主として電力事業者の努力によるものであり国の直接的な関与はなかったと思う。六ヶ所では着目点知事同意が得られぬまま新増設の建設が十分に詰まらずに現状と成り、これは国が自治体に対して明確な義務表示や支援体制を示していなかったことが原因と見られる。当面の義務である最終処分地の指定と地元の同意とりつけるために、国は国策として責任をもち具体的な解決のために積極的な努力をすべきである。自治体や住民の同意は電力事業者の力だけでは到底とれないものである。

本燃費物処理のためにこれまで国が大臣官庁が担いられその大部分は電力事業者の負担によるものである。将来の最終処分とそれに伴う事業資金はどれだけの額になるのか見当はつかないが、その資金の準備が必要なのは明白である。現在電力料金の値下げを求められて、いろいろと合理化努力をいつとめている電力事業者に将来にわたつて大々的な負担を求めるとには無理がある。政府と業者は協力して国策に対して最終処分の事業性を目指し、理解と同意を得て今後の電気料金の原価に準入して処分地の負担を定めることが必要である。今後本燃費物のエネルギーに較り劣化していく消費者として、それに伴う燃費物としていくらかづつの負担を今から分散していくという考え方を、国民的な合意として作り出すための努力をしなければならぬ。

いさこさ、国は積極的な政策と効果的な活動に大いに期待するところである。

氏 名 堀 江 以 喜 雄 (年 齢 69 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物は半減期も考慮して、二段階、三段階に貯蔵、廃棄も考える。有限な日本の土地に、安易に埋蔵廃棄すべきではない。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

ええ所村の土地も広いところ、でも有限な土地である。第一段階は、貯蔵もする。高レベルで半減期が非常に長いものに付いては、埋蔵も教示をうけて、長期に保存して、低レベルになるのを待ち、コンクリートで囲み、安全な形でテトラポッド等として利用する。半減期が短いものは、陸地に埋めるのではなく、海の砂漠といえる「日本海溝」に、コンクリートで囲んだ形で廃棄したいというのではまいかと思う。

日本海溝は、深い事と、海流がないこと、生物が生活してないこと等々、他へ振替えるに耐えなく、深きようである(砂漠?)と思う。

素人の思いつきかも知れないが、ええ所村に埋めるといつても、いかに長い間には、埋める場所もなくなると思っている。上記の事を考えました。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射線発生装置の処分を円滑に進めるためには、社会的な理解を得ることとが最も重要であり、それには事業者のみならず国民が積極的な役割を果たすべきである。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

原子力発電が、日本の全発電電力量の約3割を占めていた現在に於いても、国民の間には原子力に対する不信・不安感があることは事実である。ましてや、その原子力発電で使われた使用済み燃料の処分過程に於いて発生する高レベル放射線発生装置の処分については、言わばと知れたことである。

高レベル放射線発生装置の処分を円滑に進めるためには、そういった国民の不信・不安感を払拭し、社会的な理解を広く得ることとが重要な課題と考える。そのためには、処分に係る技術的安全性への信頼感と社会的安心感の確立の両面を満足させることが必要である。

技術的安全性への信頼感を高めるためには、その処分に係る技術開発・開発を今後継続して実施していくと共に、開発・開発の主要な段階に於いて、その成果を積極的に国民に情報開示し、処分方法の安全性について理解してもらふことが重要である。

社会的安心感の確立のためには、処分に伴う極めて長期的な期間に渡る監視・管理の必要性に対する社会的な不安、側之は、処分する場所が地震などに耐えて十分安全か、放射線監視がその人に長期にわたって可能なものであるか、疑問に耐えて十分に定めていくことが重要である。

この両面を満足させるためには、処分に係る実施主体や関係事業者だけでなく、国民が積極的にその活動に参画して関与し、広く国民の理解を得るためのバッチワークを行うことが必要であると考える。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の処分費用は、発電者である現世代が、発電時点の電気料金
の形で負担することにより確保すべきである。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

原子力発電所が使用した使用済み燃料再処理過程にお
いて発生する高レベル放射性廃棄物処分に係る経費の1
つは、処分事業に必要資金確保がある。

海外では、原子力発電を行って一定の期間既に差
金引き当分のかたうで資金確保を遂げた国があるが、我が国
では過去約30年にわたって原子力発電を行っていても
何ら高レベル放射性廃棄物処分に係る処分資金の確
保が未だに不足している。後世代に負担を回さなければ
めにも、現在原子力発電による恩恵を受けている現世代
がその負担を負うべきであると思う。すなわち、現世代
が負担する事業資金の確保制度を早急に確立し、資金の
確保を始めることが必要である。

我が国の場合の処分に必要な費用のモデル計算につ
いては、SHP(高レベル事業推進準備会)が試算した制
があり、それによると、原子力による発電量1kWhあ
たり数銭から10銭程度とされている。この値は、現在
既に事業資金を徴収しているアメリカ、スウェーデン等
の諸外国と比較しても、遜色のない、現実的なものである
と考えられる。これを発電者負担の考えから、電気
料金の原価に算入し、電気利用者が負担するものと考え
る。

また、この制度確立のためには、国のバックアップも
欠かせない要素があると考えます。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物の処分については、処分場の確保、立地が最大の課題であり、本課題の解決については事業主体のみならず、国が積極的に関与していくことが重要である。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

現在、エネルギー輸入国の日本にとって、原子力発電は必ず不可欠の電源となっている。世の電力と異なり、原子力発電所の使用済み燃料は資源の有効活用の観点から、汁の再処理の重要を要しており、その処理に係る高レベル放射性廃棄物の処分は、当然ながら重要な課題である。

高レベル放射性廃棄物処分については、処分場の立地確保が最大の課題であり、立地を成功させるためには、処分の安全確保はその基本である。それにも増して、長期的な継続性の面で、事業主体が国民の脅しから信頼されることが肝要である。

そのためには、国策として事業を推進する国、廃棄物の発生者として事業を全面的にバックアップする電気事業者、そして事業の推進に推進する実施主体の三者が一致協力して高レベル放射性廃棄物処分を推進することが必要である。

従って、実施主体については、実施主体の設立・運営に国が積極的に関与することが必要である。

そのような国の積極的な姿勢が見えることにより、実施主体に対する国民の信頼感も増すことになると思う。

(概要)

高レベル放射性廃棄物はガラスに固め、30年～50年冷却保存し、その後超深地層処分されることになっているが、少なくとも数百年から千年の間は地上で厳重に管理し、その間により安全な処分方法を検討する。

(意見)

「もんじゅ」の事故により、プルトニウムは夢のエネルギーでしかなかったことがはっきりしました。従って使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出すという愚かな行為は今すぐに止めるべきです。使用済み核燃料を再処理することで廃棄物の量は10倍、20倍と膨れ上がります。また、扱うのが難しい高レベル廃液もガラス固化体という不安定な固形物にし、いつ漏食するとも分からないステンレス性の容器に入れなければなりません。これ以上の量のゴミを出さないためにも、今直ぐ再処理を止め、将来も行わないことを決定すべきです。

その上で、高レベル放射性廃棄物の安全な管理については国民的合意を取りながら慎重に進めていくべきです。なぜなら高レベル廃棄物は何万年という気の遠くなるような、人間の感覚では計れないような長い時間、安全に管理しなければならないからです。元名古屋大学教授（原子核工学）の天沼氏は「高レベルは数百年から千年の間、地上または地下の施設で安全に保管して放射能の減衰と冷却を待ち、その間に開発される新しい方法・技術を生かして最終的に地層処分することが望ましい。」と提言しています。

現在の計画では2000年をめぐりに実施主体（地層処分を行なうための会社）を設立し、その実施主体が予備的調査をし、10年程度で処分予定地を決めることになっています。こうした計画をいつ、だれが、どういう権限をもって決めたいかは知りませんが、先ずは全てを白紙に戻し、一から議論していくことが必要です。

未来にわたって生命を脅かし続ける核のゴミの最終処分は、その利益を享受した今の世代の責任において、決して次の世代の人々に被害と不利益が及ばぬようにしなければなりません。そのためにも全ての議論をオープンにし、国民全体で議論し、決定していくシステム、例えば最終的には国民投票などで決定するぐらいのことも必要になります。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射線廃棄物は発生量が少なく発生母体である電力会社であり発生場所が限られているので極めて管理しやすい。これは人間の生活圏から隔離しておけばよいのである。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

あらゆる人間の活動には必ず廃棄物が発生する。人間が地球に自然の一部として自然の循環系の中にいるときは、廃棄物の処分も自然に任せれば良かったが、今日の日本へように、狭い国土に多くの人間が暮らしているところでは、廃棄物の処分も自然任せではうまくいかない。分かりやすい例を挙げれば、食料の供給と糞尿の処分がある。人間がある生活圏内で食料を自給自足して暮らしていたときには、糞尿の処分も土に埋めたり、川に流したり、田畑の肥料にする程度で問題には生じない。今日の日本で、食料の供給が管理（産業の人的物的行為ということ）されていなければ、全日本の人に食料が行き渡らないのと同時に、糞尿もまた管理できないと我々が認識する。この糞尿の管理が適切な装置であり、排泄は便所で行うという社会のルールであり、下水の処理である。つまり供給も管理され、廃棄物も管理されているのである。

さて、今日、日本の暮らしている側大なエネルギー、特にその最も高次元形態である電力。供給と消費によって成立している。この電力供給は極めて緻密に管理されているから我々は安心して暮らして楽しむことができる。この電力供給の4%が原子力発電で賄われている。この原子力発電は使用するウラン燃料が少量で済むだけに廃棄物も少ないが、それでも廃棄物は発生する。高レベル放射線廃棄物もその一部である。これは高レベルの放射線エネルギーを有する点が一般の廃棄物と異なるが、発生量が少ないこと、発生場所が限られていること、発生母体が電力会社であることなどから極めて管理しやすい。要は、人間の生活圏から確実に隔離しておけば良いのである。国内は数十年間冷却管理する施設と数kmの地下処分場があれば充分の間隔は十分である。我々の暮らして来た廃棄物と比較しての凄まじさを見れば分る。これは今日の技術で十分可能である。

氏名 高井 進

(年齢 68 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

核燃料サイクルの中心課題とも言える高レベル放射性廃棄物処理について国民のコンセンサスを得るために、徹底した情報の公開を行い、国民が共通の認識を持つ必要がある。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

私は山口県エネルギー問題懇話会事務局の高井と申します。私どもの団体は原子力発電を積極的に肯定し、推進の立場で活動をしている民間団体であります。わが国は無資源国であり、狭小な国土に高水準の生活と営む1.25億人の人口を擁するとうう大いなるハンディキャップと背負っていきます。そのうち中 原子力発電は52基が稼働し、総発電量の3分の1を占めるまでに至っております。このことは、国の指向するエネルギー改革が着実に定着化しつつある証しであり、国民の生活秩序の中で原子力発電は確実に市民権を得ている存在だと考えております。然しながら、スッキリ晴れ渡、天意味での市民権ではおほうように思えてなりません。それは、今日のテーマである高レベル放射性廃棄物に関する国の確たる姿勢、方針が国民に見えて来ないからであります。私どもの山口県においては県の主催で原子力推進、反対の専門家の出席のもとに連日3回シンポジウムが開催されておりますが、反対派学者が指摘するおひトイレなきマンション論に代表される高レベル放射性廃棄物処理問題であります。確かに現実の問題として各産業にかける産業廃棄物処理計画が大きな社会問題化しており、どの産業にとっても関連した産業廃棄物処理問題は大きな負担となっていて現実があります。然し、原子力発電における核燃料サイクルの位置づけと考慮あるところ、この問題は促進や許されるべきとされております。私は、国民が問題点の共通認識を持つ手段として、徹底した情報の公開の必要性を痛感しております。それは、高レベル放射性廃棄物処理や核燃料サイクルとある国家的プロジェクトの最重要中心課題であると認識しているからであります。動燃の「所蔵工学センター」の北海道幌延町設置計画についても詳細な報告と問題点の情報と関係者に提供すべきことを考えます。それは、内容が異なるが原子力発電の新規立地地点と共通するものがあると考えられるからで可

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物の処分は安全性が国民に見えぬ形で
の推進・実証試験等による信頼感の醸成が努力が肝要
な地への浸透・入水には都市消費者の支援と国民の地味振興
策が不可欠

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

処分場の安全性：現に廃棄物は存在し、今後とも原子力発電
に伴って出てくる。この原子力安全の処分する必要は、大
多数の国民に異論はないとみる。
処分場は、安全かつ経済的・効率所であるべきで、所種
はその方法で、その概念について国民大多數の理解と合
意が必要。現状では高レベル廃棄物の管理・性状と処分
方法の概念について知識の普及はゼロに近い。
広く国民の理解を深めるには、数種類の処分方法のモ
デルの實際に近い状態で、その安全性の検証・実証
試験の状況の公開・見学、概念の積極的な提供が必要。
研究室の試験管テストは、基礎的レベルの。2000年前
までには処分場の信頼性や処分すべき地・選定と安全基準
の策定に関する技術的・科学的に明らかにすることが不十分
である。処分場、その結果今後(地中)や数種の石炭(操
業)方式等もある。だが、これらは、研究・実証試験から
国民に周知し、理解と働きかけ、その結果に基づいて安
全性確保のルール、基準作りをして、この安全性について
将来国民大多數や地元地域住民の理解と信頼を得る水
な地・地域共生：国民大多數は、安全性について、信
頼と働き、地元住民は、理解のレベルは理解が、あつては何
故にこれについて心理的に受け入れ、このマッパを認め
るのには、都市住民は、その支援・理解感で、1地域共生
策である。現在都市は、地方から、水・食料・エネルギー
・人材等の供給を受け、その知識に乏しい。
今地方は、資源に注いでいて、これの対策は、急務で進
むよう、地元住民の創出、なにより、地元住民の活用、これら
・リ・フ・レ・ー・シ・ョ・ン施設等、必要である。事業資金は、事業資金と国
の交付金等による適切な分配と重視。
事業資金の確保：受益者負担の方式で、廃棄物の処分
止は、必要で、適切な方法で、結果的に、より、実行の徹底
後の研究開発への適正な支出が必要。制度・実施主体等
は、国民の理解の度と国の主導で早期に決断。

意見記入

氏名：山口敏昭（年齢：38歳）

概要（80字以内）

原子力政策に関する国民的論議は大いにするべきですが、生産的論議とするには「社会的信頼を高め合う」との共通認識が必要だと思います。その視点で五項目の意見を述べます。

意見（800字以内）

「基本的考え方」が、さらに実効あるものになるよう五項目の意見を述べます。

第一は、専門家と一般国民との役割、立場の整理です。専門家と国民とをつなぐ意味でも情報公開は重要ですが、それを基に意思決定の段階では、国民側が「ある程度納得できれば後は専門家に任せる」という信頼を裏付けとした社会的ルールを取り戻すことが重要です。すべてを見て知らなければ納得できないとの風潮が強まれば、新しい科学技術の導入は後退し、かえって社会的不利益を増大させてしまいます。

二つ目に、第三者機関創設にあたっては、公明正大なルールを明示し、自由で責任ある議論を保障することが必要かと思えます。原子力安全委員会などの組織は、現状では官僚主導の行政運営を正当化する隠れ蓑や防波堤との印象は否定できません。

三つ目に、マスコミ報道の偏向や間違いに対しては、その都度、専門家や国民がそれぞれの立場で是正を求める行動を起こすことです。民主主義の健全運営には「国民の正しい意思決定に貢献するマスコミ」が必要であり、そのためにはマスコミへの監視を怠ってはなりません。

四つ目に、原子力施設を「迷惑施設」とするレッテル張りからの脱皮です。立地点の住民が、エネルギー安定供給の担い手であり、世界の安全保障や地球環境の保護に貢献している誇りと自信を持ってこそ真の地域振興も可能と考えます。

五つ目に、政治の不在、政治家の不甲斐なさです。小選挙区制の導入以来、票にならない問題に政治家は無関心や知らんぷりを決め込む傾向が強く見られます。議会制民主主義の基本に立ち返り、国の将来を左右する問題を国会の場で十分議論する仕組み作りを検討すべきだと思います。

最後に、原子炉や加速器を利用して放射能を消滅させる「消滅処理技術」の確立への期待を表明し、私の意見とさせていただきます。

以上

氏 名 百田 喜代 (年 令 61才)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

この世の中で完全にノーリスクの物は存在しないと思っ
ている。生きるための方法をあらゆる角度から考えると
き、人の数知の結集で防げるリスクならば私はそれに賛
成したい。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

将来の日本のことを考えたとき、私は原子力発電は必要と思っています。

「放射性物質は子々孫々に禍根を残す」と言われてます。がしかし、もっと重要なことがあるのではないのでしょうか。先日開催されたCOP3でも大変論議されていた地球温暖化の問題です。今、地球は世界規模で温暖化が進んでおり、2030年頃には海面が50cmも上昇し日本の砂浜は90%消失するといわれております。これは万が一が起こるかもしれないという危険ではなく確実にくる危機です。これこそが禍根というべきで、今こそ私達一人ひとりが真摯な態度で化石燃料からの脱却について現実的な方法を論じ、実践すべきではないのでしょうか？

勿論代替エネルギーの研究は必要不可欠ですが、人の数知を結集してことにあたればリスクは最小限に押さえられるのではないのでしょうか。またプラス面も大いに考慮すべきです。

今ひとつに高・低レベル廃棄物の問題があります。一昨年の動燃の不祥事に国民は「やっぱり」という思いに慄然としたものです。しかしきちんと公表しないのは当然悪いのですが、「安全・危機」だけの報道ではなく、国民にもっと理解できる教育をすべきではないのでしょうか。与えられた報道を鵜呑みにするのではなく生活に密着した問題を、自らの手で判断できる人間を育てる……。教育を社会を変えていくべきです。夢物語かもしれませんが、高レベル廃棄物をリサイクルしてまたリサイクルしてとことん使いきって僅かにのこったものを地層処分する。それは自然に元のウランに戻る。科学者の数知に期待します。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

核燃料を再処理しながら原子力利用を進める核燃料サイクル推進は必要。今後の取り組みは研究開発と高度化確保。加えて透明な情報提示が国と国民との信頼関係を築く。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

エネルギー一括湯と地球温暖化への対策の観点から原子力発電は重要な役割を果たす。だが原発が稼働する以上使用済み燃料が発生し続ける。その使用済み燃料の再処理に伴い発生する放射能レベルの高い廃棄物(廃液)を適切に処理、貯蔵庫で貯蔵し、地下の深い地層中に最終処分する。昨年11月、放射能学会で青森県・六ヶ所村の地下レベル放射能を計測するセンサー、再処理工場建設現場を現地に見学した。東海事業所のガラス固化技術開発施設について、資料でしか知らねえ。以下私見を。

① 六ヶ所村では、東海事業所がガラス固化技術を開発し再処理工場では、ガラスの特性を利用して高レベル放射能物質を封じ込めるという手法。ここではロボットのアーム操作が主要工程の中で大きなウェイトを占める。ロボットの性能を高め、他の研究部門での活用も進めたい。ガラス利用について、先の繊維分析研究をさらに進め、新技術開発開発を期待したい。

② ガラス固化には、最終処分を60年、30~50年間の貯蔵を60年というが、地層が下大地層など想定した再処理が必要である。期間満了は60年後取り扱いは可能なのか、現状把握を兼ねた子エッセイ機能も実用な措置を講じてほしい。

③ 最終処分については、地層処分の手続き確保に万全を期し、想定外のエッセイアルも発生するべきだ。このために、地域経済の研究機関と連携してデータを徹底分析し現状と未来についての考えを深めたい。

以上、3点について述べたが、世界の環境をめぐって議論は必ずしもエスエーシートの一途をたどらずともある。六ヶ所村の自力処理の努力は不可欠だ。その点、国・地方自治体や関係機関と、地元住民との成熟した関係を作るためには、何よりも透明な情報の開示・提示が大切である。広報を重視し、建設現場での“手抜き”や安全対策を徹底していったらいい。

氏 名：石 丸 繁 美（年 齢 5 0 歳）

（概 要）

高レベル放射性廃棄物の処分は、避けられない問題であり、賛成、反対といった対立した議論ではなく具体的な解決策を検討する実のある議論を進めて頂きたい。

（意 見）

私は、自分が原子力発電所の立地県（愛媛県）に居住しているため、原子力に対して非常に興味をもっており、原子力モニターなど様々な場に参加して勉強するとともに、実際に自分の目で六ヶ所村原子燃料サイクル施設や伊方発電所などを見学させてもらっています。ただ、原子力については、反対の立場の方の意見やトラブル時のマスコミ報道は、非常に不安感をおおるような情報提供がなされ、一方、国や電力会社の資料では、「安全です」ということになっているなど、賛成・反対といった立場からの一方的な意見・情報しか、私たちに届かないように思います。

原子力は既に日本の電気の3分の1をまかなっており、今後、新エネや省エネを進めるにしても、当分の間原子力が中心とならざる

を得ないでしょう。

高レベル放射性廃棄物について私は詳しい知識は持ち合わせていませんが、既に過去の発電に伴うものが発生しており、今後も原子力に頼る以上発生しつづける事、さらに、これを何らかの形できちんと処分しなければならぬ事は、私たち国民が事実として受け止めておかねばならないと思います。

その上で、高レベル放射性廃棄物処分についても様々な選択肢があると思いますが、どのような方法があり、どのような危険性が伴い、それをどう解決していくのか、こういった事を国民全体で、きちんと議論し、解決策を見いだしていく必要があると思います。

そのためには、専門家が正しい知識・情報を積極的に公開するとともに、賛成・反対といったかみ合わない議論ではなく、前向きな議論を進めていただきたいと思います。

今回このような高レベル放射性廃棄物処分に関する意見交換会が開催されているということを知り、一主婦として、原子力に関する理解を深めるため、交換会に応募いたしました。

今回の有意義な議論を期待しております。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

今日、原発関係において最も気がねがならないのは「高レベル放射性廃棄物処分場」の選定である。そしてその国民的合意を求めるための方策である。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

先年、大々所村の関連施設を見学した折、「実地研修地」分譲地がどこにある場所も未定だと伺い、内なるうばいするほどの奇異な感じを受けた。ヨーロッパから運送されたガラス固化体の一時保管場も、一層にもとなく見えた。

高レベル放射性廃棄物を半永久的に安全に、深地層に閉じ込めるといふことの困難さは左ににも十分理解できるところである。しかしながら、それなかに、処分場の選定、深地層の環境、条件の調査は一刻も早く取組まなければならぬ問題である。

最近各地で、原発立地界に因して住民投票とバウンスが盛んになっており、高レベル放射性廃棄物処分場の選定は、当然地域の強い反対が予想される。

そこで、住民投票に法的拘束力は無いとはいえ、全く視て多量にすれば、代議民主制を取っているわが国政の形態からして、当該地方自治体の議会が議決によるべきであり、さらにこの議会の議決決定は当該都道府県にまで拡大すべきである。然論議や、各都道府県の地域エゴも許さず、議会制民主主義を重くすることが大事である。

一方、国においても週知に事例があるように、本件に關する国会決議を、閣議決定、あるいは法律全制定案を行い、国民的合意形成に積極的な対応が望まれる。

現在、地球温暖化防止策という重い課題解決ともからめて、国民の認識を高める好機とも思う。

わが国の料電、技術が先進国に劣らぬものがあることは大抵の国民は理解している。要は、こゝ最近電力使用と結びつけて、原発の現状と安全性を広く一般国民に訴えて認識と協力を求めようとする組織的力が不足していると思う。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物の処分は、ガラス固化体の地層処分についての研究とその安全性の国民のコンセンサスを得るための努力と最終処分地の決定が重要である。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

使用済燃料は、再処理を行うことが基本であるから、青森県六ヶ所村の再処理工場の建設を着実に推進することが必要である。

しかし永久に貯蔵するわけではないので、高レベル放射性廃棄物の地層処分は可能であり、その永久処分も国際的に合意されているといわれており、今世紀中に最終処分地の決定が国の義務といえる。

そのためには、国の安全確保対策や処分方法の明示が必要であり、地層処分についての研究やその安全性に対する国民へのコンセンサスを得るための努力が重要となる。

一方、使用済燃料貯蔵施設は、すべて発電所内又は再処理施設内にあり、廃棄物の減量化と共に、貯蔵期間の長期化に備え、敷地内の用地の拡大と敷地外での貯蔵も可能となるような中間貯蔵施設の整備と関連法の成立が急がれる。

英国で再処理された高レベル放射性廃棄物の返還には、全量をガラス固化体として返還されることも重要となってくるので、2000年以降、BNFから日本へ開始される返還についての申し入れに対する合意が大切となる。

氏

名

森田 義孝

(年齢 75 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

青森県及び六ヶ所村の更なる理解と得る努力を尽し、深
地層処分も同地におき受け願う外なからう。同地は貯蔵
処分の最適地と看とらるべきからうである。国民的議論
願望として。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

青森県六ヶ所村の貯蔵施設で30～50年貯蔵した後、
同地附近で深地層処分して永久無害な最終処分とする以
外に方法はなからうと考える。
強要はうば、同地附近が最終処分に最適地と看とらる
べきからである。
青森県並びに六ヶ所村の更なる理解と得るために、全
国民的議論と願望とを喚起する必要あり。

氏 名 梅田ひとみ

(年 齢 39 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物は、危険な物と思うが、いつまでも、処理を外国に、たよるのではなくて、日本国内で行なうべきだと思う。そのためには、安全でなくてはならない。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

私は、平成8年度より、原子力モニターをしていました。原子力について、全く無知な私でした。原子力の情報といえば、新聞、テレビなど、マスコミからでした。自分の目で見て、そして、疑問を直接、担当者聞くことにより、これからの日本に、原子力は、必要エネルギーだと言うことが分かりました。

正直に言って、高レベル放射性廃棄物は、危険な物と思います。しかし、私たちが生活する上で、原子力発電は、必要エネルギーで、その廃棄物を国内で処理するのは、当然の義務だと思います。いつまでも、外国に、たよってはいけません、いけないと思います。

私は、青森県六ヶ所村と、九州電力玄海原子力発電所を見学することができました。省エネルギー、省資源と叫ばれていながら、現在、工場の問題と同様、私たちの認識を高めることが必要だと思います。そのためには、原子力を安全のことで語りださなくて、危険な上で開発していくという、考えをひとつほしいと思います。その時、一番大切なのは、人間としてのモラルだと思います。原子力に携わっている人も、私たち、国民も、もっと、同僚の価値感を持って、話し合っていくべきだと思います。

高レベル廃棄物の、電力会社や、それだけ、助け合い、大きい意味で、日本のこれから問題として、力を出し合い、処理していく道があるのでは、ないでしょうか。電気の生活の中での生活になれた、自分です。今から、電気の生活には、あてられません。そして、これからの子どもたちには、私たちより力、力と安全の力を必要としていくでしょう。六ヶ所村に建設した高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターと、自分の目で見た、私の意見です。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

国の高レベル放射性廃棄物処理処分の基本的な考え方を確認し、更に今後の対策に理解を深め、その対策実現を目指して協力しよう。六ヶ所再処理工場の完成を急ごう。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

○高レベル放射性廃棄物、処理処分の基本的な考え方
放射性廃棄物対策の推進に当たっては、多様な廃棄物の性質に従って安全確保が前提であり、かつ合理的に国民の理解と協力の下で計画的に進めなければならぬ。
わが国の「原子力長期計画」では、使用済燃料の再処理の結果生じる高レベル放射性廃液について、次のような基本方針が示されている。

- (A) 安定な形態に固化(ガラス固化)し、
- (B) 30年から50年間程度冷却のため貯蔵した後、
- (C) 地下深い地層中に処分する

処分の実施に向けて、事業活動によって生じた放射性廃棄物の処理処分については、各事業者自身が責任を持つことになっている。一方国では処分方針の総合的な策定、安全性の確認などを進めるが、処分の手順としては原子力長期計画にうたわれている事項を要約すると、

- (A) 処分場の建設スケジュールを考慮して、2000年を目安に処分事業の実施主体の設立を図る
- (B) 実施主体は適切と思われる処分候補地について予備調査を行い、地元の了承を得て処分予定地を選定する
- (C) 実施主体は処分予定地の適性を判断するため、地下施設によるサイドの特性調査と処分技術の検証を行う
- (D) 実施主体は処分地として適当と判断すれば、処分場の設計を行い、事業の許可申請を行う
- (E) 今後の原子力開発利用の状況等を総合的に判断して、2030年代から遅くとも2040年代半ばまでの操業開始を目途とする

よなっている。国は再処理については海外に頼らずに国内だけで核燃料サイクルを確立する方針である。このために国内再処理施設を整備し、大々く期待のがある青森県六ヶ所村の再処理工場の完成を急ごう。

氏名 高橋 美智子

(年齢 69 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

原子力発電に対する国民の理解を得る為にはエネルギーの
必要性のPRとある。そして廃棄物処分問題と情報公開
し差し迫った問題だと一般の人にわかりやすく説明して
意識を高める

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

我が国では停電することのない電気を私達は日常生活
に於て当然のように使っておりある。九州電力も原子力
発電で40%強をまかなっている。そこで有明原の立地地
域の人と除けば一般の人には原子力発電に無関心のよう
であり、もつと原発の必要性和一般の人々に意識してもら
わねえと高レベル放射性廃棄物処分のことも他人事とし
て差し迫った問題等と考へないと思ひます。国は国民に
もつと脆弱な我が国のエネルギー供給構造や原子力発電
のメリットとPRすべきだと思ひます。国民一人一人の
問題として今後のエネルギーと考へることが出れば当
然廃棄物処分に対する意識も深まるのでは無いでしょうか
か。これから増え続ける廃棄物を処分するに十分な受
用が必要だと思ひますが、私達の生活に欠かせない電
気であり、受益者負担でも仕方がないと思ひます。国は科
学技術庁にもつと予算を増し外国からも有識者を増して
高レベル放射性廃棄物処分の問題解決に着手してほしい
と思ひます。日本原子力文化振興財団が毎週水曜日に
朝日新聞に「エネルギーのはなし」コラムが掲載されていま
すが、国も県も高レベル放射性廃棄物処分に對する情報
をわかりやすく公開してほしいと思ひます。エネルギー
の需要は今後増え続けると思ひます。地球温暖化等の問
題と考へる時原子力発電所の増設は欠かせないと思へる
れまふと同時に廃棄物も増々多くなり心配です。一日も
早く対応してほしいと思ひます。